



10周年記念特別企画映像展

超[メタ]ヴィジュアル

— 映像・知覚の未来学

10th Anniversary Commemorative Exhibition The Collection of the Images & Technology Gallery, TAMMP "Visualize - The history and futurescape of visual media"

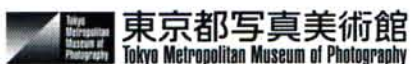
会期: 2005年 [前期] 4月30日(土) → 6月5日(日) [後期] 6月7日(火) → 7月10日(日)

リユージョン系 / アニメーション系 / 3Dバーチャル系 / サイエнтиフィック系 / アーカイブ系 — 「視覚への欲求」が私たちがいかにつつき動かしてきたか

■出品作家 資料= 岩井俊雄 / 河口洋一郎 / 名和晃平 / タムラサトル / 田中秀幸 / scope + 橋本典久 / 藤本由紀夫 + 永原康史 / 平野啓一郎 / 横尾忠則 / 福田美蘭 / 木本圭子 / minim++ / 明和電機 / クワクホリョウタ / 松村泰三 / 森脇裕之・他 / 幻燈機 / 影絵 / アナモルフォーズ / 驚き盤 / ソートロフ / フラクシノスコープ / エジソン社・リュミエール社映画ポスター / ステレオスコープ / カメラオブスクラ・他

■主催=東京都 東京都写真美術館 ■後援=文化庁 ■企画協力=株式会社NHKエンタープライズ ■東京都写真美術館開館10周年特別協賛=キヤノン株式会社 / サッポロホールディングス株式会社 株式会社資生堂 株式会社写真弘社 / ソニー株式会社 / 大日本印刷株式会社 / 凸版印刷株式会社 株式会社日本発色 富士フィルムイメージング株式会社 株式会社リコー 50音順 ■協力= NHK放送技術研究所 九州大学大学院源田研究室 / CG-ARTS協会 / 財団法人 画像情報教育振興協会 / 毎日新聞社 / NITインターコミュニケーション・センター(ICC) / 白石コンテンポラリーアート 新潮社 / キューンレコード 日本ビューレット / パナソニック株式会社 / シリコンスタジオ株式会社 / 日本ハイナリー株式会社 株式会社フレックスインターナショナル 株式会社堀内カラー 株式会社イーケイジャパン / クリエイトプラスターほか 順不同 Technology by Apple

■会場=東京都写真美術館 地下1階映像展示室 ■開館時間=10:00 18:00 木・金は20:00まで / 入館は閉館30分前 ■休館日=月曜休館 たた、5月2日月・祝は開館 ■観覧料=一般500 400円 学生400 320円 中高生 65歳以上250 200円 ※ 内は20名以上の団体 ※東京都写真美術館友の会会員 / 小学生以下 / 障害をお持ちの方と介護者2名まで 第3水曜日に観覧する65歳以上は無料 ※本展チケット半券を後期にお持ちいただく 内の割引料金でご覧いただけます



「視覚への欲求」が私たちがいかにつつき動かしてきたか

—5つの切り口からその背景を探る

東京都写真美術館「映像展示室(映像工夫館)」は、日本初の公立映像文化施設として10周年を迎えます。本展では、約4000点の写真・映画前史コレクションを5つのカテゴリで総覧し、現代作品とともに一つの超(メタ)ヴィジュアルな空間を創り出します。高度な可視テクノロジーが私たちの日常となり、「視る/知る」欲求はどの時代より高まっています。映像メディア分野は世界的なコンテンツ産業・文化となり、アートとしての体系化や「拠点」としての文化施設が求められています。豊かな映像史の広がりや現代表現に触れ、楽しみながら知る「映像メディア教育」の場として開催した映像史入門「映像体験ミュージアム」展(2002年)に続き、本展では、新旧の視覚メディアを等距離に往来し、新たな表現・創造のインスピレーションを探ります。また、国内外アーティストによる現代作品や現代美術・文学へと拡張する新たなプロジェクト、その源である映像装置を同時に紹介し、そこに通底する「視覚・知覚への欲求」を体感する展示やワークショップを行います。写真とそれを取りまく映像分野は、私たちの文化全体に影響を与えています。開館10周年の節目に、常に変容する科学と芸術の融合領域「映像メディア/メディア芸術」の新たな意味を探求し、創造的で豊かな精神性をもった生き方を実現する、新たな表現スタイルや可能性の創出を試みます。広がる映像メディアの体験にどうぞご参加ください。

リユージョン系 — 「錯視と幻影」

歪める / 変容させる / コラージュする / 映す・照らす / 繰り返す

アニメーション系 — 「動き・アニメーション」

動かす / 止める / ずらす / 色を変える / つかまえる

3Dバーチャル系 — 「3D・奥行き知覚」

とりまく / 飛び出す / 触れる / リアルにする / 出現させる

サイエンティフィック系 — 「視覚の拡大と縮小」

拡大する / 縮小する / 探索する / 高精細にする / 音をさぐる

アーカイブ系 — 「記録・ドキュメンテーション」

写す / タイムスライスする / 記憶する / 蓄積する / 伝える

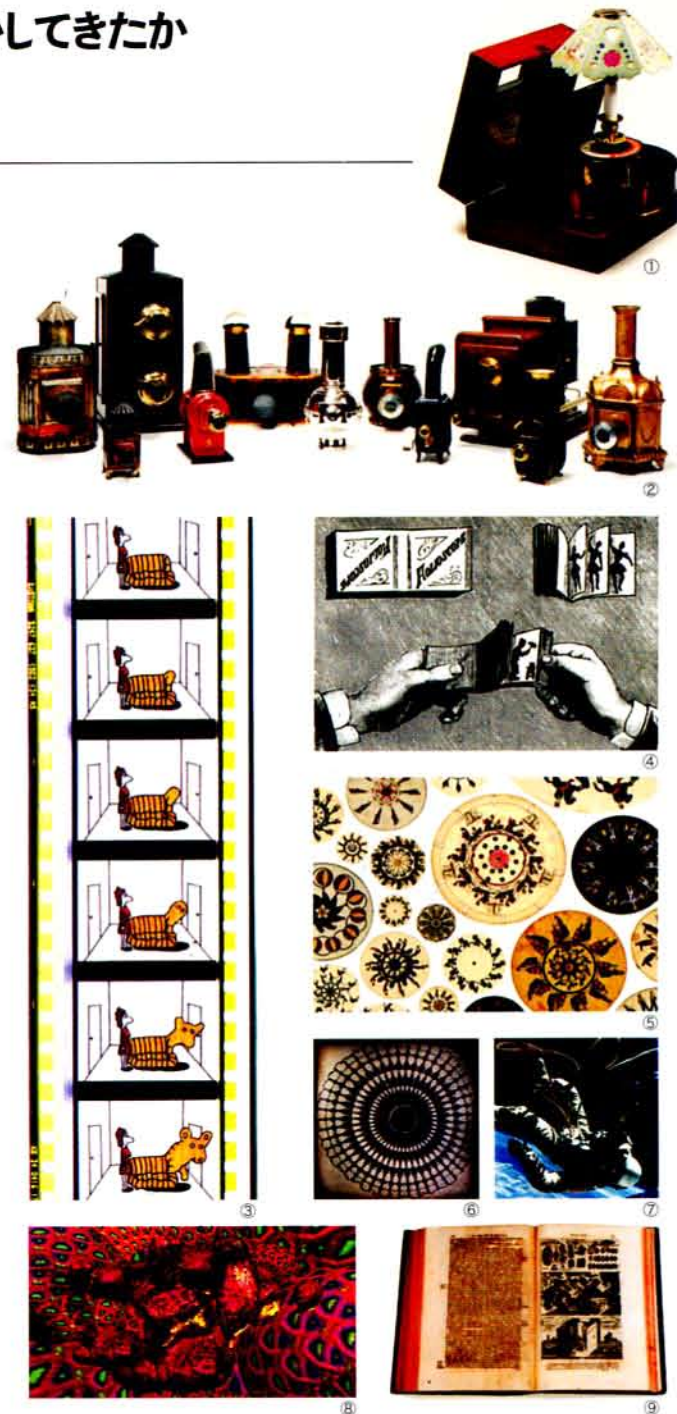


5つのパートすべてを「前期」「後期」にわたって展示します。本展チケット半券を後期にお持ちいただく()内の割引料金でご入場いただけます。



恵比寿ガーデンプレイス内

JR 恵比寿駅東口より徒歩7分
〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3
URL: www.syabi.com
TEL: 03-3280-0099



(表図版) 名和晃平「PixCell [Zebra]」2003年 撮影: 金子治夫
(裏図版) ①「フラクシノスコープ・テアトル(劇場)」1879年 ②「ヨーロッパの幻燈機」19世紀 ③久里洋二「キネトスコープのフィルム」1994年 ④「フリップブック」ラ・ナチュールより 19世紀 ⑤「各種の驚き盤」19世紀 ⑥W.カーペンター博士「うにの棘の断面」1848年 ⑦NASA「宇宙への旅—25年の歴史」より1965年 ⑧河口洋一郎「Cerebran」2002年 ⑨アタナシウス・キルヒャー著「光と影の大きい術(第2版)」1671年 ⑩岩井俊雄「時間層II」1985年 毎日新聞社蔵・東京都写真美術館寄託 ⑪タムラサトル「7Kg TIGER」2003年 ⑫横尾忠則「皆は一人のために、一人は皆のために」1993年 ⑬福田美蘭「Camera Eye」1994年 ※画像はすべて参考図版です。表図版、⑩、⑪以外すべて東京都写真美術館蔵です。

新作 / 展示プロジェクト

参加作家有志による「iPod photo」によるアニメーション作品、平野啓一郎「女の部屋」をベースにした文学作品の視覚化(映像制作=NHKエンタープライズ)、「iPod shuffle」による会場音楽(藤本由紀夫)、レオナルド画「最後の晩餐」をモチーフにしたNHK放送技術研究所「バーチャル・スコープ」など、多様な試みを用意しています。

関連事業

会期中の上映、トーク、ワークショップ等については詳細決定後、ホームページ等で告知予定です。ご確認の上ご参加ください。
http://www.syabi.com